

令和2年

第8回教育委員会会議

報告事項

(令和2年度秋田県公立学校教諭等採用候補者選考試験の結果について)

秋田県教育委員会

令和2年度秋田県公立学校教諭等採用候補者選考試験の結果について

令和2年4月9日(木)

高校教育課

令和2年度 教諭等新採用状況

採用校種	前々年度 前年度 採用延期者	R2 合格者	R2 辞退者 採用延期者	R2 採用者	備考
小 学 校 教 諭	3	100	5	98	辞退3名 大学院進学採用延期2名
中 学 校 教 諭	1	56	1	56	辞退1名
高 等 学 校 教 諭	2	21	0	23	
特 別 支 援 学 校 教 諭	0	22	0	22	
養 護 教 諭	0	13	2	11	辞退2名
栄 養 教 諭	0	1	0	1	
教 諭 計	6	213	8	211	
高 等 学 校 実 習 助 手	0			0	令和2年度募集無し
特 別 支 援 学 校 実 習 助 手	0			0	令和2年度募集無し
特 別 支 援 学 校 寄 宿 舎 指 導 員	0	1	0	1	
実 習 助 手 寄 宿 舎 指 導 員 計	0	1	0	1	
栄 養 教 諭 特 別 選 考 (任 用 換)	0	4	1	3	辞退1名
合 計	6	218	9	215	

令和2年

第8回教育委員会会議

報告事項

(令和2年度秋田県公立高等学校入学者選抜
一般選抜学力検査の抽出調査結果について)

秋田県教育委員会

令和2年度秋田県公立高等学校入学者選抜
一般選抜学力検査の抽出調査結果

1 検査教科の平均点（受検者）

教科	令和2年度	平成31年度	前年度比較
国語	58.6	63.4	-4.8
社会	57.2	48.7	+8.5
数学	51.5	53.7	-2.2
理科	57.0	65.0	-8.0
英語	58.0	49.4	+8.6
合計点	282.3	280.2	+2.1
100点換算点	56.5	56.0	+0.5

2 過去3年間の平均点の推移（受検者）

年度 \ 教科	国語	社会	数学	理科	英語	合計点	100点換算点
令和2年度	58.6	57.2	51.5	57.0	58.0	282.3	56.5
平成31年度	63.4	48.7	53.7	65.0	49.4	280.2	56.0
平成30年度	57.1	61.7	51.4	64.0	54.5	288.7	57.7

国 語

1 小問別の完全正答率と得点率

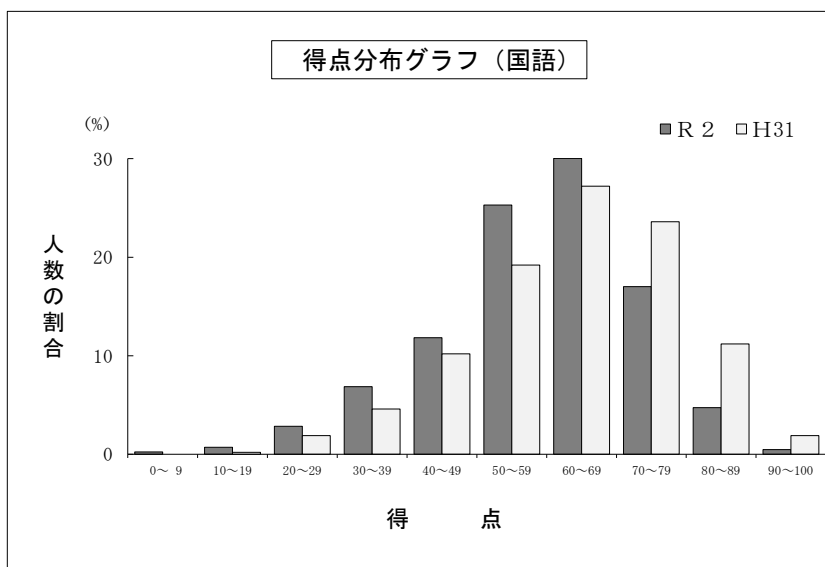
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)											
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	
一	1	打ち合わせの内容を正確に聞き取る	88.7												
	2	打ち合わせの内容を正確に聞き取る	83.2												
	3	打ち合わせの内容を正確に聞き取る	70.4												
	4	打ち合わせの様子から、話し方の特徴を捉える	69.5												
二	1	本文の内容を捉える	84.4												
	2	本文の内容を捉える	83.0												
	3	本文中の表現から内容を捉える	16.8												
	4	本文の内容を捉える	87.9												
	5	(1)	a 本文の内容を捉える	68.8											
			b 本文の内容を捉える	83.5											
	(2)	本文の内容をまとめる	0.2												
三	1	① 配当漢字を書く	65.7												
		② 常用漢字を読む	96.9												
		③ 常用漢字を読む	96.0												
		④ 配当漢字を書く	92.0												
	2	文節を捉える	86.8												
	3	活用の種類を書く	55.1												
	4	対義語を書く	47.3												
	四	1	本文の内容を捉える	77.3											
2		本文の内容を捉える	72.8												
3		(1)	a 叙述から登場人物の心情を捉える	97.6											
			b 叙述から登場人物の心情を捉える	83.7											
		(2)	叙述から登場人物の人物像を捉える	21.5											
4		(1)	叙述から本文の内容を捉える	48.9											
		(2)	Ⅱ 叙述から本文の内容を捉える	11.1											
	Ⅲ 叙述から本文の内容を捉える		22.2												
五	1	① 歴史的仮名遣いの読みを書く	84.4												
		② 歴史的仮名遣いの読みを書く	80.4												
	2	古文の内容を捉える	53.2												
	3	a 和歌の内容を捉える	45.9												
		b 和歌の内容を捉える	2.8												
	4	I 古文の内容を捉える	39.0												
Ⅱ 古文の内容を捉える		1.2													
六	理由を交えて、自分の考えを分かりやすく書く														

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

2 得点分布

得点分布表（国語）

年度 段階	令和2年度	平成31年度
90～100	0.5	1.9
80～ 89	4.7	11.2
70～ 79	17.0	23.6
60～ 69	30.0	27.2
50～ 59	25.4	19.2
40～ 49	11.8	10.2
30～ 39	6.9	4.6
20～ 29	2.8	1.9
10～ 19	0.7	0.2
0～ 9	0.2	0.0
計	100.0	100.0
平均点	58.6	63.4
標準偏差	14.3	14.8



3 現状の分析

平均点は58.6点と昨年を4.8点下回った。本文から読み取った内容を、自分の言葉で適切に表現できたかどうか得点の差となった。

- ① 「聞くこと」に関する検査では、内容を正確に聞き取ることはできていたが、発言の内容を比較して共通点を見付けたり、話し手の意図などに注意しながら聞いたりすることに課題が見られる。
- ② 説明的な文章では、部分的な内容を読み取ることはできていたが、文章全体を俯瞰して筆者の主張を読み取り、条件に応じて表現することに課題が見られる。
- ③ 言語事項では、漢字の読み書きは概ねできていたが、動詞の活用の種類や対義語の理解には課題が見られる。
- ④ 文学的な文章では、登場人物の心情を読み取ることは概ねできていたが、読み取った内容を再構築し、自分の言葉で表現することに課題が見られる。
- ⑤ 古典では、歴史的仮名遣いなどの基本的な知識は身に付いていたが、現代語訳を活用しながら登場人物や作者の思いを想像し、自分の言葉でまとめることに課題が見られる。
- ⑥ 作文では、効果的な題材選びや自分なりに考えを深めて書くことには課題が見られたが、文章構成を工夫して書くなど、普段の学習の成果が表れている。

4 授業において取り組むべきこと

- 【ポイント】
- ・話の論理的な構成や展開に注意して聞いたり、話し手の考えと比較したりして、自分の考えをまとめる学習を推進する。
 - ・文章の内容や書き手の表現の意図を捉え、読み取ったことを自分の言葉で表現する学習の充実を図る。
 - ・自分の考えが相手に効果的に伝わるよう、言葉や表現の仕方を工夫する学習の充実を図る。
 - ・言語感覚を磨き、語彙を豊かにするための言語活動の充実を図る。

- ① 複数の発言を比較・検討することで互いの共通点や相違点を整理したり、話の全体から話し手の意図を捉えたりする活動の充実を図りたい。
- ② 文章についての理解を深めるために、叙述を根拠にして、読み取った内容や感想を交流したり、自分の言葉でまとめたりする活動の充実を図りたい。
- ③ 古典の学習では、分かりやすい現代語訳や作品の解説を教材として活用しながら、古典の一節を引用した文章を書く活動などを通して、古典の世界への興味・関心を喚起したい。
- ④ 社会生活で使う語彙を豊かにするために言語事項に関する知識を広げ、状況に応じて適切に言葉を使い分けられるよう、言葉の多様な活用が具体的に行われる言語環境の整備を進めたい。

社 会

1 小問別の完全正答率と得点率

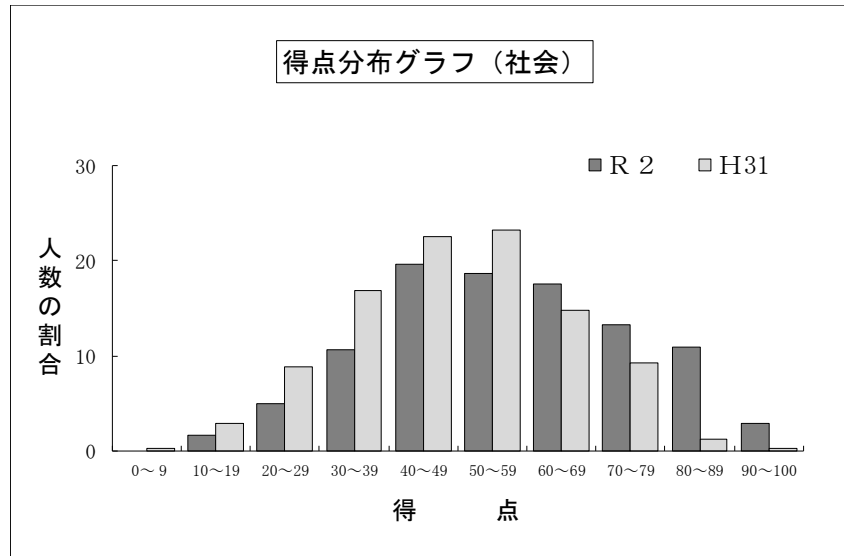
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)		
				0	100	
1	(1)	「魏志倭人伝」に登場する人物を答える	76.4	79.4		
	(2)	仏教に関わるできごとを年代の古い順に並べ替える	55.8	55.8		
	(3)	古代の律令制で口分田が与えられる制度を答える	65.5	66.5		
	(4)	中世につくられた自治的な村を答える	62.6	63.1		
	(5)	馬借の拠点が天津にあった理由を資料を基に説明する	27.7	42.3		
	(6)	江戸幕府による寛政の改革の内容を選択する	30.7	30.7		
	(7)	江戸時代に銅が長崎に運ばれた目的を説明する	31.0	37.7		
	(8)	天保の改革に影響を与えた19世紀のできごとを選択する	56.7	56.7		
	(9)	八幡製鉄所が設立された時期を年表から選択する	48.2	48.2		
	(10)	近代の経済の様子を資料を基に選択する	52.7	52.7		
	(11)	戦後の経済に関わる改革の特色を説明する	32.2	36.4		
	(12)	戦後のエネルギー政策を資料を基に選択する	59.6	59.6		
2	(1)	経度0度の経線を答え、模式図からその位置を選択する	51.3	51.9		
	(2)	A	各州の特色を表す資料を基にアジア州を選択する	48.7	48.8	
		D	各州の特色を表す資料を基に南アメリカ州を選択する	43.0	43.0	
	(3)	三大洋から、オーストラリア大陸に面する海洋を答える	69.5	69.7		
	(4)	①	貿易収支が赤字の国を資料を基に選択する	68.3	68.3	
		②	資料中の3か国に共通する輸出品目を選択する	76.4	76.4	
③		アメリカとドイツの輸出の共通点を資料を基に説明する	23.9	25.6		
3	(1)	県名と県庁所在地名が異なるものをすべて選択する	69.0	69.0		
	(2)	わが国の世界遺産とその所在地の組み合わせを選択する	57.9	57.9		
	(3)	伝統文化を継承してきた地域にみられる課題を説明する	51.1	72.8		
	(4)	伝統的工芸品が作られてきた背景を気候の面から説明する	63.1	69.5		
	(5)	い	秋田県を訪れる外国人宿泊者数が多い地域を選択する	54.4	54.4	
う		秋田県のグローバル化への対応を資料を基に説明する	81.1	83.9		
4	(1)	国民の意思などを政治に反映させる権利を答える	44.4	44.6		
	(2)	被選挙権に関わる内容の組み合わせを選択する	61.9	61.9		
	(3)	売買の契約が成立する段階を資料を基に選択する	53.4	53.4		
	(4)	裁判員制度における裁判員の役割を選択する	44.0	44.0		
	(5)	法テラスが設置された目的を資料を基に説明する	35.9	58.2		
	(6)	需要・供給と価格の関係を資料を基に説明する	56.0	56.2		
	(7)	公共料金にあたるものを選択する	76.1	76.1		
	(8)	財政政策と金融政策に関わる組み合わせを選択する	63.8	63.8		
	(9)	資料の活動例を基にあてはまる国連機関を選択する	87.0	87.0		
	(10)	国連加盟国数に関わる資料を基にアフリカ州を選択する	63.8	63.8		
	(11)	か	これからの社会に関わる資料を基に持続可能を答える	78.3	78.6	
き		これからの社会に関わる資料を基に社会的責任を答える	27.0	28.5		

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

2 得点分布

得点分布表（社会）

年度 段階	令和2年度	平成31年度
90～100	2.8	0.2
80～89	10.9	1.2
70～79	13.2	9.2
60～69	17.5	14.8
50～59	18.7	23.3
40～49	19.6	22.6
30～39	10.6	16.8
20～29	5.0	8.8
10～19	1.7	2.9
0～9	0.0	0.2
計	100.0	100.0
平均点	57.2	48.7
標準偏差	18.4	15.8



3 現状の分析

前年度に比べ、70点以上の層が増加し、平均点は8.5点上昇した。基礎的・基本的な知識及び技能の習得に一定の成果は見られたが、より一層それらを活用していく力を身に付けさせる必要がある。

- ① 大問1(7)は、江戸幕府の鎖国下のオランダ、中国との交易について、資料から読み取れる情報を基に説明する問題である（完全正答率31.0%）。各時代の特色や時代の転機に関係する基礎的・基本的な事象の理解と、理解した内容を自分の言葉で表現することに課題がある。
- ② 大問2(4)③は、二つの国に共通する輸出相手先の特色を、資料から読み取れる情報と既習の知識とを関連付けて、考察する問題である（完全正答率23.9%）。世界の地域構成の基本的な枠組みを基に、学習内容を相互に関連付けて概念に関する知識を獲得することに課題がある。
- ③ 大問3(3)は、グラフから少子高齢化の現象を読み取り、表と関連付けて伝統文化が受け継がれてきた地域に見られる課題を説明する問題である（完全正答率51.1%）。複数の資料を活用して、地理的課題の要因や影響について考察し、表現することに課題がある。
- ④ 大問4(5)は、弁護士数の地域差と法テラスの事務所設置数の資料から、法テラスが設置された目的を考察する問題である（完全正答率35.9%）。資料から必要な情報を正しく読み取り、現代社会に見られる課題について考察し、適切に表現することに課題がある。

4 授業において取り組むべきこと

【ポイント】・単元のまとまりを見通し、社会的な見方・考え方を働かせることができるような問いの構成を工夫した学習活動を展開する。
・社会的な見方・考え方に沿って情報を読み取り、考察したことを適切に表現する学習活動を展開する。

- ① 歴史的分野では、歴史的事象を因果関係などで関連付けて、歴史の大きな流れを理解する力を養うことが大切である。絵図や年表などの資料を基に、時期や推移などに着目して、歴史的事象を一面的に捉えるのではなく、様々な角度から捉え、考察したり選択・判断したりする学習の充実を図る必要がある。
- ② 地理的分野では、地理に関わる事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、多面的・多角的に考察、構想する力を養うことが大切である。資料から読み取った情報や習得した知識・技能を関連付けて、地理的事象の意味や意義、特色を思考・判断・表現する学習の充実を図る必要がある。
- ③ 公民的分野では、現代の社会的な事象について、具体的な事例を通して、多面的・多角的に考察、構想し、表現する力を養うことが大切である。概念等に関わる知識を獲得し、現代社会の見方・考え方を働かせながら、選択・判断する学習活動の一層の充実を図る必要がある。

数 学

1 小問別の完全正答率と得点率

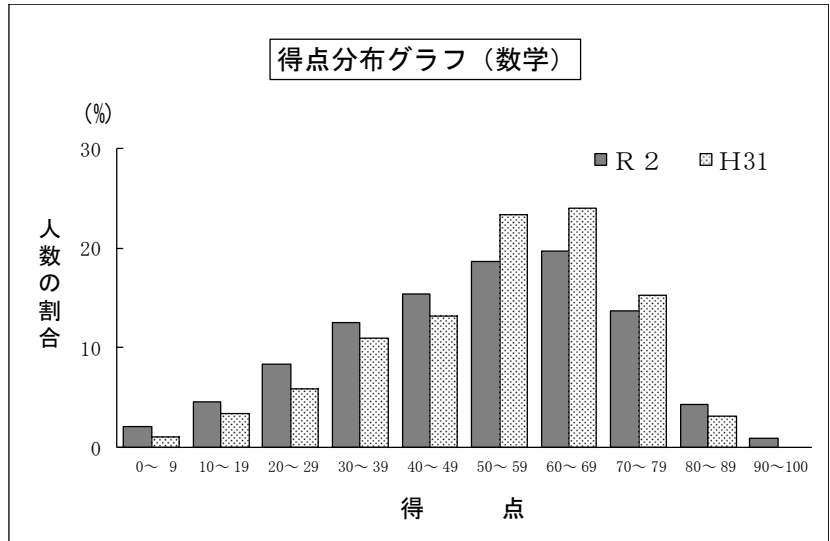
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)		選択率 (%)		
				0	100			
1	(1)	正負の数を計算する	70.9			35.7		
	(2)	分母を有理化する	87.6			45.6		
	(3)	式の値を求める	86.4			71.2		
	(4)	不等式を立式する	62.6			38.5		
	(5)	1次方程式を解く	79.1			26.0		
	(6)	連立方程式を解く	88.7			86.1		
	(7)	条件を満たす2次方程式の解を求める	54.5			75.4		
	(8)	平均の速さを求める	9.3			45.6		
	(9)	逆が正しいことがらを選択する	42.0			44.4		
	(10)	条件を満たす自然数を求める	8.3			31.4		
	(11)	平行線の性質を利用して角の大きさを求める	88.3			78.5		
	(12)	外角の性質を利用して角の大きさを求める	80.1			33.3		
	(13)	ねじれの位置にある辺の数を求める	26.1			68.8		
	(14)	円錐の体積を求める	48.9			88.4		
	(15)	立体の体積の比を求める	29.0			31.0		
2	(1)	反比例の性質で正しいものを選択する	40.7					
	(2)	①	点の座標を求める過程を記述する	70.2				
		②	c	条件を満たす値を求める	39.2			
			d	条件を満たす値を求める	31.4			
	(3)	回転移動の作図をする	55.1					
(4)	図形の面積の比を求める	9.0						
3	(1)	① a	条件を満たす値を求める	95.0				
		②	条件を満たすグラフを完成させる	74.2				
	(2)	① b	時間の求め方を説明する	41.1				
		②	c	条件を満たす式を求める	48.5			
			d	条件を満たす式を求める	44.9			
		e, f	条件を満たす値を求める	38.8				
4	(1)	最頻値を比較する	68.8					
	(2)	①	条件を満たす確率を求める	53.9				
		②	条件を満たす確率を求める	26.0				
5	I	(1)	条件を満たす角の大きさを求める	58.0				
		(2)	二等辺三角形であることを証明する	15.7				
		(3)	三角形の面積を求める	4.1				
	II	(1)	二等辺三角形であることを証明する	31.5				
		(2)	条件を満たす線分の長さを求める	21.5				
		(3)	図形の面積を求める	10.8				

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

※大問1、5は学校選択の問題。選択率は、その問題を解くように指示された受検者の割合。

2 得点分布 得点分布表（数学）

段階 \ 年度	令和2年度	平成31年度
90～100	0.9	0.0
80～89	4.3	3.2
70～79	13.7	15.3
60～69	19.6	24.0
50～59	18.7	23.3
40～49	15.4	13.1
30～39	12.5	10.9
20～29	8.3	5.8
10～19	4.5	3.4
0～9	2.1	1.0
計	100.0	100.0
平均点	51.5	53.7
標準偏差	19.2	17.2



3 現状の分析

- ① 大問1では(1)、(2)、(3)、(5)、(6)、(11)、(12)で得点率が70%を超えており、数学的な技能に関わる学習の成果が見られる。(8)平均の速さを求めること、(10)条件を満たす自然数を求めること、(15)立体の体積の比を求めることなど、複数の知識及び技能を活用して解決することについて課題が見られる。
- ② 大問2(2)①の点の座標を求める過程を記述する問題の得点率が74.5%であり、学習の成果が見られる。大問2(3)の作図については得点率が60.5%であり、改善傾向が見られる。
- ③ 大問3(1)①の場面から条件を満たす値を求める問題の得点率が95.0%であり、学習の成果が見られる。(2)②の関数の式を求める問題では、切片の意味の理解について課題が見られる。
- ④ 大問4(1)の最頻値を求め、その値を用いて説明する問題の得点率が74.4%であり、代表値の理解について改善傾向が見られる。大問4(2)②の2けたの数が素数になる場合の確率を求める問題の得点率が26.0%であり、落ちや重なりがないように数えることについて課題が見られる。
- ⑤ 大問5は、二等辺三角形の証明を含んだ図形の問題であった。I(2)は得点率が21.6%、II(1)は得点率が43.5%で、平面図形の性質を基にして、論理的に説明することについて課題が見られる。

4 授業において取り組むべきこと

【ポイント】 次の3点を重視し、数学的活動を通してバランスよく指導する。

- ・数量や図形についての理解を深め、知識の習得を図る。
- ・数学的な技能の習熟を図る。
- ・数学的な思考力・判断力・表現力等を高める。

- ① 大問3や大問5のような事象を論理的、統合的・発展的に考察する題材を用いた学習活動を充実させるために、単元や領域を意図的、計画的に関連付けた単元構想や授業構想が必要である。
- ② 「数と式」の領域では、用語の正しい理解や、計算や方程式を解くことなどの数学的な技能について、一層の習熟を図りたい。また、大問1(4)、(8)のように、数量の関係を表し考察する問題では、具体的な場面を想起して意味を捉えさせることを重視したい。
- ③ 「図形」の領域では、大問5 I、IIのように、条件を変えて考えさせることで、見方が広がったり、考え方が深まったりする問題を設定し、既得の知識及び技能を活用する活動の充実を図りたい。
- ④ 「関数」の領域では、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、大問2(1)、(2)のように、グラフの性質と概形を関連付ける問題を設定するなどし、論理的に考察する活動の充実を図りたい。また、大問3(2)のように、目的に応じて表、式、グラフを適切に選択し的確に表現する活動の充実を図りたい。
- ⑤ 「資料の活用」の領域では、大問4(1)のように、代表値の意味を理解させるとともに、資料から読み取ったことを、適切な代表値を用いて数学的に表現する活動の充実を図りたい。

理 科

1 小問別の完全正答率と得点率

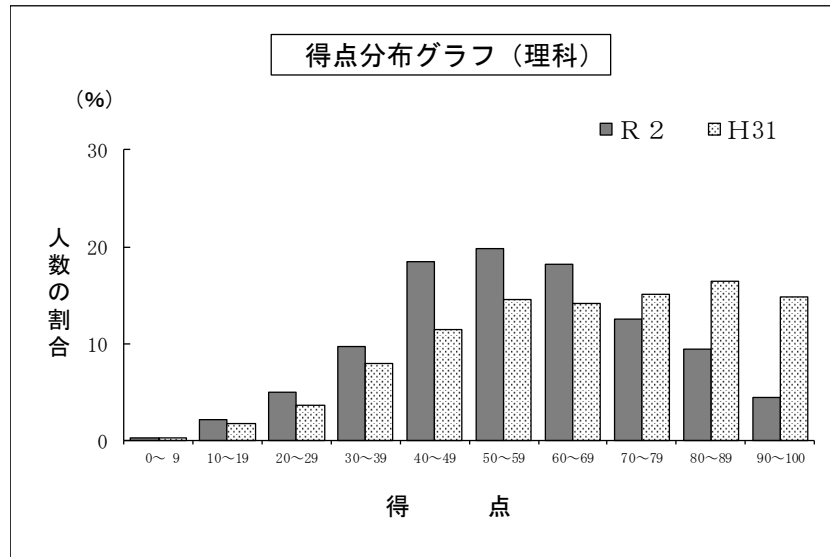
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)											
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	
1	(1)	① 意識して起こる反応を選択する	83.9												
		② 命令の信号の伝達経路を修正する	61.7												
	(2)	① 関節の名称を答える	77.1												
		② 腕を曲げたり伸ばしたりするときに縮む筋肉を選択する	86.8												
	(3)	① 血しょうの名称を答える	24.3												
		② 呼気の酸素と二酸化炭素の濃度を、吸気と比較して説明する	58.4												
2	(1)	金星の分類を選択する	86.3												
	(2)	天体の位置を表すために必要なものを選択する	71.9												
	(3)	金星が動く方向を選択する	52.5												
	(4)	日の入り後、西の空に金星を観察することができる位置を選択する	47.3												
	(5)	金星の形と見かけの大きさについて説明する	52.0												
	(6)	星座が同じ位置に見える時刻を選択する	43.7												
3	(1)	① 単体の気体を選択する	76.8												
		② 水素を発生させるために必要なものを選択する	27.2												
		③ 二酸化炭素を区別するために使うものを選択する	96.0												
		④ 水上置換法で捕集できない気体の性質を説明する	87.0												
	(2)	① 密度と体積から質量を求める	64.1												
		② 水素が空気などよりも密度が小さいことを説明する	84.2												
4	(1)	① 等速直線運動をする小球に働く力を選択する	28.1												
		② 小球の平均の速さを求める	14.4												
		③ 小球に働く力を大きい順に並べる	37.6												
	(2)	① 糸がおもりを引く力の大きさを求める	77.3												
		②	X 糸が切れる組み合わせを選択する	49.6											
			Y おもりに働く力のつり合いについて説明する	14.4											
5	(1)	① 裸子植物のつくりを選択する	69.7												
		② 裸子植物を選択する	85.6												
	(2)	① 質量パーセント濃度から水と食塩の質量を求める	52.2												
		② 発熱反応の名称を答える	82.0												
		③ 化学かいろの仕組みについて、グラフを基に選択する	30.3												
	(3)	① 金属の性質を説明する	72.6												
		② 湿度を求める	22.5												
		③ くもる条件を説明する	23.2												
	(4)	① 光が反射する道筋を作図する	48.0												
② カーブミラーの中央がふくらんでいる理由を説明する		42.1													

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

2 得点分布

得点分布表(理科)

年度 段階	令和2年度	平成31年度
90～100	4.5	14.8
80～89	9.5	16.5
70～79	12.5	15.1
60～69	18.2	14.1
50～59	19.9	14.6
40～49	18.4	11.4
30～39	9.7	8.0
20～29	5.0	3.6
10～19	2.1	1.7
0～9	0.2	0.2
計	100.0	100.0
平均点	57.0	65.0
標準偏差	18.8	21.4



3 現状の分析

- ① 今年度の得点分布は、昨年度と比べ、90～100、80～89の段階の割合がそれぞれ10.3、7.0ポイント減少し、40～49、50～59の段階の割合がそれぞれ7.0、5.3ポイント増加している。
- ② 観点別の完全正答率は、「科学的な思考・表現」が46.3%、「観察・実験の技能」が85.0%、「知識・理解」が66.6%である。観察、実験を重視した授業づくりの成果が表れた結果と言える。
- ③ 領域別の完全正答率は、生物的領域が68.4%、化学的領域が66.6%、地学的領域が52.4%であるが、物理的領域は38.9%と低かった。
- ④ 大問2(6)の星座が同じ位置に見える時刻を求める問題では、完全正答率が43.7%である。時間的・空間的な見方・考え方を働かせながら、観察、実験によって得られたデータを分析して解釈し、論理的な思考に基づいて適切な判断を行う力が十分とは言えない。
- ⑤ 大問3(1)②の水素を発生させるために必要なものを選択する問題では、完全正答率が27.2%である。小学校での学習内容や複数の知識を関連付けて考える力が十分とは言えない。

4 授業において取り組むべきこと

【ポイント】科学的に探究する力を育成するために

- ・見通しをもって観察、実験を行い、得られた結果を分析して解釈する学習活動の充実を図る。
- ・科学的な概念を活用して考えたり、表現したりする学習活動を工夫する。

- ① 大問2(6)、大問3(2)②、大問4(1)②、大問5(3)②のように、観察、実験で得られた結果や資料を分析して解釈し、適切な判断を行うことができるようにするためには、科学的な根拠を踏まえ、論理的な思考に基づいて探究していく場面を設定することが求められる。その際、差異点や共通点、要因、規則性、傾向等の視点を組み入れた発問をするなどの工夫が必要である。また、生徒が互いの考えの妥当性を検討したり、総合的に考えたりする活動を取り入れることが大切である。
- ② 大問3(1)②、大問5(4)②のように、科学的な概念を活用して、新たな課題について解決できるようにするためには、既習の内容や生活経験を根拠にして予想や仮説を立てさせたり、目的意識をもたせた上で実験方法を考えさせたりすることが求められる。また、探究の過程を振り返る活動を計画的に取り入れ、考察によって得られた結論を実際の経験や日常生活に当てはめて再度捉え直す活動を設定したりすることも大切である。

英 語

1 小問別の完全正答率と得点率

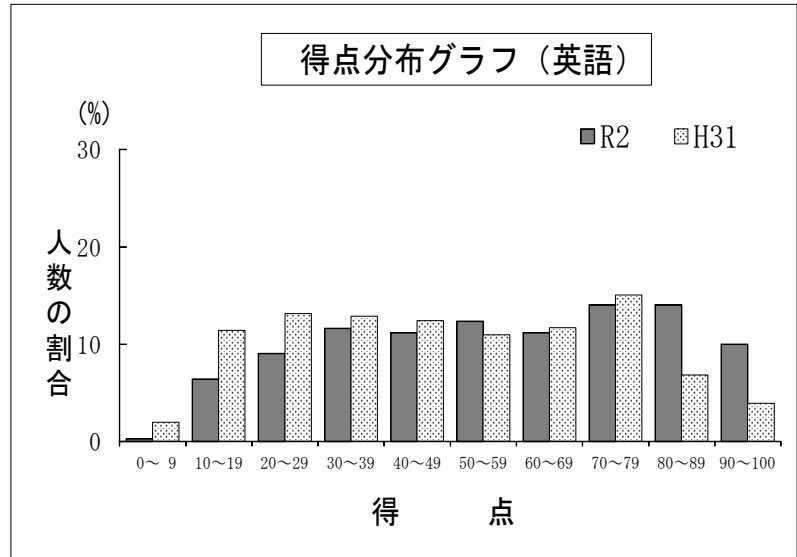
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)											
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	
1	(1)	① 短い会話を聞いて要点を聞き取る	93.6												
		② 短い会話を聞いて要点を聞き取る	93.3												
	(2)	① 会話を聞いて適切に応答する	84.6												
		② 会話を聞いて適切に応答する	72.0												
		③ 会話を聞いて適切に応答する	83.8												
	(3)	① まとまりのある会話を聞いて要点を適切に聞き取る	88.6												
		② まとまりのある会話を聞いて要点を適切に聞き取る	58.9												
		③ まとまりのある会話を聞いて要点を適切に聞き取る	81.9												
	(4)	記号	まとまりのある英語を聞いて概要を適切に聞き取る	50.6											
			まとまりのある英語を聞いて概要を適切に聞き取る	78.1											
[答え]		[問い]に対する、自分の意見等を英文2文で書く	17.1												
2	(1)	① 内容に合う単語を書く	77.9												
		② 内容に合う単語を書く	25.2												
		③ 内容に合う単語を書く	64.6												
		④ 内容に合う単語を書く	83.8												
	(2)	① 文脈に応じて語形を変化させる	67.2												
		② 文脈に応じて語形を変化させる	28.3												
		③ 文脈に応じて語形を変化させる	62.0												
		④ 文脈に応じて語形を変化させる	31.1												
	(3)	① 必要な2語を加え、正しい語順で英文を完成させる	55.3												
		② 必要な2語を加え、正しい語順で英文を完成させる	56.1												
③ 必要な2語を加え、正しい語順で英文を完成させる		43.9													
3	(1)	① 内容を正確に読み取り、英語の質問に英語で答える	16.9												
		② 内容を正確に読み取り、英語の質問に英語で答える	29.0												
	(2)	自分の経験を英文にまとめる	12.6												
4	(1)	本文の概要を正確に読み取る	50.1												
	(2)	書かれた内容を正確に読み取る	77.9												
		書かれた内容を正確に読み取る	47.5												
	(3)	① 内容を読み取り、適切な単語を書く	33.3												
② 内容を読み取り、適切な単語を書く		43.0													
5	(1)	本文の内容を表す語を読み取る	61.3												
	(2)	本文の概要を正確に読み取る	58.2												
	(3)	本文の要点を読み取る	25.9												
		本文の要点を読み取る	49.6												
	(4)	本文の内容から語句の意味を捉える	60.6												
	(5)	本文の要点を正確に読み取る	56.1												
		本文の要点を正確に読み取る	56.8												
	(6)	① 本文の概要を正確に読み取る	62.9												
② 本文の概要を正確に読み取る		69.6													

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

2 得点分布

得点分布表（英語）

年度 段階	平成2年度	平成31年度
90～100	10.0	3.9
80～89	14.0	6.8
70～79	14.0	15.0
60～69	11.2	11.7
50～59	12.4	10.9
40～49	11.2	12.4
30～39	11.6	12.9
20～29	9.0	13.1
10～19	6.4	11.4
0～9	0.2	1.9
計	100.0	100.0
平均点	58.0	49.4
標準偏差	24.0	23.9



3 現状の分析

平均点は58.0点で前年度を8.6点上回り、80点以上の得点層が24.0%と大きく増加している。また、得点分布グラフでは、複数の学力層が重なり合い、得点層が横並びとなる結果となった。基本的な語彙や文法を用いて適切に表現する問題で得点差が生じている。一方、リスニング問題の得点率はどの学力層でも高く、音声を中心とした指導の成果であると考えられる。

- ① 大問1(2)は、放送が1回のみ聞き取り問題であり、完全正答率が平均79.2%であった。一方、(4)の質問に対する応答を求める問題は、完全正答率、得点率がそれぞれ17.1%、41.0%であり、質問を正しく聞き取り、基本的な語彙を用いて自分の考えを表現する力に課題が見られた。
- ② 大問2では、(1)の基本的な語彙を書く問題の完全正答率が平均62.9%であり、継続的な指導の成果が見られた。(3)の英文を完成させる問題では得点率が平均45.7%と前年度を下回った。具体的な場面や状況に合った語句を用いて正しく表現する力に課題が見られた。
- ③ 大問3は、メールのやり取りを基にした問題であった。(1)は、完全正答率は平均23.0%であり、代名詞が示す内容を把握する力や三人称単数現在形を正しく活用する力に課題が見られた。(2)は完全正答率が平均12.6%であり、簡単な語句や文を用いて事実などを表現する力に課題が見られた。
- ④ 大問4(3)は、直前の会話で読み取った内容を基に、続く会話の文脈に応じて適切な語を書く問題で、(3)全体の完全正答率は平均38.1%であった。まとまりのある英文や会話から得られた情報について、互いの考えを伝え合う言語活動を更に充実させることが望まれる。
- ⑤ 大問5は、物語文を読んで情報を整理し、概要や要点を読み取る問題であった。全体の完全正答率は平均55.7%であったが、(3)【貧しい人々】の完全正答率は平均25.9%にとどまった。概要だけでなく理由等の詳細まで正しく読み取る力に課題が見られた。

4 授業において取り組むべきこと

- 【ポイント】
- ・幅広い資料や題材を活用しながら、生徒の興味・関心を高めるとともに、複数の領域を統合した言語活動を通じて、コミュニケーション能力の基礎を養う。
 - ・目的や場面、状況等を明確にした言語活動の中で基本的な語彙と文法事項を繰り返し指導するとともに、内容に一貫性のある文章で表現できるように指導の充実を図る。

- ① 複数の領域を統合した言語活動を通して、生徒が事実や情報、自分の考えや気持ちなどを他者と伝え合う活動を設定することが必要である。その際、生徒が興味・関心をもつ資料や題材、身の回りのことから社会や世界との関わりを重視した題材を扱うことが重要である。
- ② 具体的な場面や状況を想定した言語活動の中で、基本的な語彙や文法事項などの言語材料を繰り返し使用させることで、それらの定着を図る必要がある。また、言語活動後には振り返りの場面を設け、言語材料の定着のみならず、文の順序や相互の関連にも注意を払い、内容に一貫性のある文章で表現できるように指導することも必要である。

令和2年

第8回教育委員会会議

報告事項

(令和3年度秋田県立中学校入学者選抜
適性検査問題等作成方針について)

秋田県教育委員会

令和3年度秋田県立中学校入学者選抜適性検査問題等作成方針

秋田県教育委員会

1 基本方針について

- (1) 適性検査問題については、小学校学習指導要領（平成29年文部科学省告示第63号）に基づくものとする。
- (2) 適性検査問題等は、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等を把握できるように出題する。
- (3) 適性検査問題等の内容は、適性検査と作文とする。
適性検査は、放送による検査を含む、国語、社会、算数、理科の教科横断的な内容とし、検査時間は50分とする。
作文は、自分の考えや意見等を書くものとし、検査時間は45分とする。

2 適性検査問題等の配慮事項について

適性検査と作文において、次の事項についての力がみられるように配慮する。

(1) 適性検査

- ア 聞いたり、読んだりしたことから、必要な情報を取り出し、その意味を理解する力
- イ 情報を自分の経験や教科で学んだことに関連付けて捉え、思考・判断する力
- ウ 目的に応じて、自分の考えや意見を表現する力

(2) 作文

自分の経験や見聞を基に、目的や意図に応じて、文章の構成や表現を工夫して書く力

※外国語（英語）の取扱いについて

令和4年度秋田県立中学校入学者選抜から、適性検査は、放送による検査を含む、国語、社会、算数、理科、外国語（英語）の教科横断的な内容とする。

なお、令和3年度秋田県立中学校入学者選抜適性検査においては、外国語（英語）に関する出題は行わない。

令和2年

第8回教育委員会会議

報告事項

(令和2年3月高等学校卒業者の就職決定状況について)

秋田県教育委員会

令和2年3月卒業者の就職決定状況について(公務員を除く)

令和2年3月31日現在

高 校 教 育 課

(公立全日制)

- 1 卒業者数 **6,897** 人
- 2 就職決定状況 (公務員を除く)

地 区		卒業者数	就職 希望者数	就職 決定者数	就職 決定率	県内就職			県外就職			未決定者
						希望者数	決定者数	決定率	希望者数	決定者数	決定率	
県 北	今年度	1,672	505	504	99.8%	305	304	99.7%	200	200	100.0%	1
	昨年度	1,741	518	516	99.6%	312	311	99.7%	206	205	99.5%	2
中 央	今年度	3,001	782	780	99.7%	574	573	99.8%	208	207	99.5%	2
	昨年度	3,043	771	769	99.7%	531	530	99.8%	240	239	99.6%	2
県 南	今年度	2,224	622	621	99.8%	420	419	99.8%	202	202	100.0%	1
	昨年度	2,226	638	638	100.0%	396	396	100.0%	242	242	100.0%	0
県全体	今年度	6,897	1,909	1,905	99.8%	1,299	1,296	99.8%	610	609	99.8%	4
	前年度	7,010	1,927	1,923	99.8%	1,239	1,237	99.8%	688	686	99.7%	4
	増減	-113	-18	-18	±0.0	+60	+59	±0.0	-78	-77	+0.1	±0

- ① 公立全日制就職決定率 **99.8%** (前年同期比 ±0.0ポイント)
 県内就職決定率 **99.8%** (前年同期比 ±0.0ポイント)
 県外就職決定率 **99.8%** (前年同期比 +0.1ポイント)

- ② 地区別決定率等
 県内就職決定率は、県北地区で前年同期比 ±0.0ポイント 中央地区は ±0.0ポイント 県南地区 -0.2ポイント
 県外就職決定率は、県北地区は前年同期比 +0.5ポイント 中央地区は -0.1ポイント 県南地区 ±0.0ポイント

- ③ 就職希望者数は、1,909人であり、前年同期比で -18人
 就職決定者数は、1,905人であり、前年同期比で -18人

(公立全日制+公立定時制+私立高校)

	卒業者数	就職 希望者数	就職 決定者数	就職 決定率	県内就職			県外就職			未決定者	
					希望者数	決定者数	決定率	希望者数	決定者数	決定率		
全日制	6,897	1,909	1,905	99.8%	1,299	1,296	99.8%	610	609	99.8%	4	
定時制	154	70	69	98.6%	57	56	98.2%	13	13	100.0%	1	
私立	775	141	138	97.9%	112	109	97.3%	29	29	100.0%	3	
全県総計	今年度	7,826	2,120	2,112	99.6%	1,468	1,461	99.5%	652	651	99.8%	8
	前年度	7,952	2,123	2,116	99.7%	1,403	1,398	99.6%	720	718	99.7%	7
	増減	-126	-3	-4	-0.1	65	63	-0.1	-68	-67	+0.1	+1

令和2年3月卒業者の就職決定状況について(公務員を含む)

令和2年3月31日現在

高校教育課

①公立高校全日制

	希望者	決定者	決定率	未決定者	未決定者前年度比
県内民間	1,299	1,296	99.8%	3	+1
県外民間	610	609	99.8%	1	-1
小計	1,909	1,905	99.8%	4	±0
県内公務員	162	155	95.7%	7	+3
県外公務員	130	127	97.7%	3	+3
小計	292	282	96.6%	10	+6
合計	2,201	2,187	99.4%	14	+6

(前年同期比 -0.2ポイント)

②公立高校定時制

	希望者	決定者	決定率	未決定者	未決定者前年度比
県内民間	57	56	98.2%	1	-1
県外民間	13	13	100.0%	0	±0
小計	70	69	98.6%	1	-1
県内公務員	0	0	—	0	±0
県外公務員	0	0	—	0	±0
小計	0	0	—	0	±0
合計	70	69	98.6%	1	-1

(前年同期比 +1.2ポイント)

③私立高校

	希望者	決定者	決定率	未決定者	未決定者前年度比
県内民間	112	109	97.3%	3	+2
県外民間	29	29	100.0%	0	±0
小計	141	138	97.9%	3	+2
県内公務員	16	16	100.0%	0	±0
県外公務員	3	3	100.0%	0	±0
小計	19	19	100.0%	0	±0
合計	160	157	98.1%	3	+2

(前年同期比 -1.2ポイント)

①+②+③県全体

	希望者	決定者	決定率	未決定者	未決定者前年度比
県内民間	1,468	1,461	99.5%	7	+2
県外民間	652	651	99.8%	1	-1
小計	2,120	2,112	99.6%	8	+1
県内公務員	178	171	96.1%	7	+3
県外公務員	133	130	97.7%	3	+3
小計	311	301	96.8%	10	+6
合計	2,431	2,413	99.3%	18	+7

(前年同期比 -0.2ポイント)

県内就職希望割合 **67.7%** 1,646 / 2,431 人 (前年同期比 +2.6ポイント)

〔 内訳 男 **65.5%** 962 / 1,468 人
女 **71.0%** 684 / 963 人 〕

県内就職の割合 **67.6%** 1,632 / 2,413 人 (前年同期比 +2.6ポイント)

〔 内訳 男 **65.5%** 954 / 1,457 人
女 **70.9%** 678 / 956 人 〕

令和2年

第8回教育委員会会議

報告事項

(令和2年3月特別支援学校高等部卒業者の就職決定状況について)

秋田県教育委員会

令和2年3月特別支援学校高等部卒業者の就職決定状況について

令和2年3月31日現在
特別支援教育課

1 特別支援学校高等部卒業者の進路希望状況

単位:人

卒業予定者数	進学等	就職	福祉施設等利用	無職等	備考
217	1	79	136	1	・福祉施設等利用の内訳: 入所施設1、生活介護47、療養介護4、生活訓練2、就労移行支援1、 就労継続支援A型1、就労継続支援B型77、その他1、地域活動支援セ ンター1、 医療機関等1 ・無職等の内訳:在宅
割合	0.5%	36.4%	62.7%	0.5%	

2 就職希望者の内定状況

単位:人

学校・障害種別	学校数 <small>(含分校・分教室・附属)</small>	卒業予定者数	就職希望者数	内定者数 <small>(含内諾)</small>	備考
視覚支援学校(視覚障害)	1	3	1	1	
聴覚支援学校(聴覚障害)	1	1	1	1	
秋田きらり支援学校(肢体不自由)	1	13	1	1	
ゆり支援学校道川分教室(病弱)	1	2	0	0	
知的障害校(9校3分校) <small>※附属特別支援学校を含む</small>	12	198	76	74	
計	16	217	79	77	就職内定率97.5%
		卒業予定者数に占める割合	36.4%	35.5%	

3 就職内定先の業種等

業 種 等	人数	割合
医療・福祉(介護施設介護補助、保育補助、館内清掃、病院内清掃)	19	24.7%
製造業(縫製、電子部品等)	16	20.8%
卸売業・小売業(飲食料品小売、衣料小売、自動車整備)	16	20.8%
宿泊業・飲食サービス業(宿泊施設、飲食店、調理補助)	8	10.4%
公務	7	9.1%
生活関連サービス業(クリーニング、ビルメンテナンス、リサイクル)	5	6.5%
運輸郵便業	2	2.6%
金融・保険	2	2.6%
教育	1	1.3%
農業(農場・農園、農事組合法人)	1	1.3%
計	77	

4 特別支援学校高等部卒業生進路先状況の年度別推移

単位:人

年度	卒業人数	進学	訓練機関	就職	施設等	無業・在宅	就職者の割合	知的障害校	
								就職者数	就職者割合
H22	179	9	2	41	107	20	22.9%	36	24.5%
H23	204	3	3	51	130	17	25.0%	45	25.7%
H24	198	5	0	58	117	18	29.3%	54	32.5%
H25	197	3	0	75	105	14	38.1%	68	38.9%
H26	199	4	0	83	100	12	41.7%	74	44.0%
H27	198	9	0	70	108	11	35.4%	66	39.3%
H28	223	1	0	70	146	6	31.4%	67	33.2%
H29	201	2	0	76	120	3	37.8%	65	37.8%
H30	196	0	0	74	118	4	37.8%	68	39.3%
R1	217	1	0	77	136	3	35.5%	74	37.4%